

台風等通過後の事後対策について

平成26年8月7日
日高農業改良普及センター

今週末以降の前線や台風により農作物への影響が懸念されます。

もし、浸冠水等の被害を受けた場合、身の安全を確保した上で、農作物被害の発生を最小限に止めるために以下の技術対策を参考に、状況に応じた適切な対応をお願いします。

1 共通事項

- 1 ほ場に流入した流木、ゴミ等は安全を確認して速やかに除去する。
- 2 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 3 農業、畜産関係施設の損傷、倒壊等の点検に努め、必要に応じて修復、補強をする。
また、修復等に必要な資材については、早急に必要量を把握し、その確保に努める。
- 4 農業機械が被害を受けた場合は、速やかに必要な点検、整備を実施するとともに、今後の農作業に支障が生じないように修理を行う。
- 5 農作物については、病虫害の発生に注意し、適切な防除に努める。薬剤を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。

2 水稲

- 1 浸冠水した水田は、速やかに排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 泥流や土砂が流れ込み堆積した水田は、速やかに排除する。
- 3 穂や葉に泥が付着している場合は、可能であれば防除機（鉄砲ノズル）の量を多くして洗浄する。
- 4 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路や水口は水が引いた後、速やかに改修、補修する。
- 5 ほ場内に、流入した異物などがある場合は、後の収穫作業に支障が無いように除去する。
- 6 病虫害の発生に注意する。特に「いもち病」は多湿条件で発生するので、早期発見と適正防除に努める。

3 畑作物

1 豆類

- (1) 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 「べと病」（大豆）、「灰色かび病」、「茎疫病」の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って早急に防除を行う。

2 てんさい

- (1) 褐斑病、葉ぐされ病が蔓延するおそれのあるほ場では、機械作業が可能となり次第、防除を行う。

4 野菜

1 トマト・ミニトマト・ピーマン

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布を行う。
- (3) 汚水で汚染した茎葉や果実を除去する。
- (4) 「疫病」、「灰色かび病」等の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

2 きゅうり

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布、着果節位の適正化を行う。
- (3) 汚水で汚染した茎葉を洗浄、または除去する。
- (4) 「べと病」、「うどんこ病」、「灰色かび病」の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

3 かぼちゃ

- (1) 露地栽培で、浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- (2) 土壌の過湿で根痛みが発生した場合は、「うどんこ病」の蔓延が懸念されるので、ほ場を観察して適切に防除する。

4 アスパラガス

- (1) 露地栽培で、浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- (2) 施設栽培では、ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去を行う。
- (3) 「斑点病」の病害防除を行う。

5 イチゴ（高設栽培）

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去を行う。
- (2) 「うどんこ病」、「灰色かび病」の病害防除を行う。

5 花き

1 排水・換気対策

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムの捲り上げを行う。
- (2) 採花期を迎えている切花ほ場では、土壌過湿が長期化すると品質低下（軟弱化・病害発生）を招くので、ハウスの通風換気に努める。

2 病虫害防除

- (1) 病虫害防除に当たっては、土壌やハウス内の過湿により発生の高まる病害を主体に、早

めに薬剤防除を行う。

- (2) 薬剤散布後ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を利用する。

6 畜産

1 飼料作物

- (1) 雨水の浸み込んだロールベール乾草やサイレージ、冠水したスタックやバンカーサイロは飼料分析をするなど品質を確認し、飼料が不足する場合は、不足分の確保に努める。
- (2) 飼料として利用可能と判断できるものでも、大雨の影響を受けたものはなるべく早期の利用に仕向ける。
- (3) 大雨の影響を受けたロールベール乾草は、発熱する恐れがあるので必ず点検する。発熱したもの、あるいはその恐れのあるものは舎外に仮置きし、安全を確認してから収納する。
- (4) 経年草地は3日程度の冠水ではほとんど枯死しないが、無冠水に比べ減収し、冠水期間が長くなるほど枯死や減収の程度が増加する。滞水した場合は排水溝を掘るなどして排水を促す。また、既存の排水施設に詰まりがないか点検して、排水路を確保する。
- (5) 新播草地などで冠水により表土が流失して裸地化した部分が多い場合は、イネ科牧草による追播を早めに行う。

2 飼養管理・衛生管理

- (1) 浸水した畜舎では、速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の乾燥を促進する。
- (2) 畜舎内の雨水がひき次第、伝染病や乳房炎などの慢性病の発生を防ぐため、汚染部分を水洗いして消毒剤や石灰散布、石灰塗布を行う。
- (3) 乾草・サイレージ等の飼料は、泥や雨水に当たっていないことを確認して給与する。
- (4) 停電していた場合は、通電したら直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、乳房炎に罹患している場合は治療する。
- (5) 搾乳にあたっては搾乳器具、給水設備を十分に消毒するとともに、ミルカー、バルククーラー等の搾乳器具が正常に作動することを確認する。
- (6) 断水が続いている場合は、サイレージなどの水分の多い粗飼料を中心に給与する。また、放牧が可能であれば水分補給とストレス解消のために放牧地へ放す。
- (7) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診断を受ける。
- (8) 堆肥や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い河川汚染を防ぐ。

◇ 天気予報等で今後の気象経過に十分な注意をして下さい！

◇ くれぐれも作業の安全性を一番に考えて下さい！

◇ 無理をせず、作業事故防止を心がけましょう！